

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願ひ

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

慢性腎臓病患者における赤血球造血刺激因子製剤の鉄代謝、ヘプシジン 25 に対する影響
<p>1. 研究の対象および研究対象期間</p> <p>研究「慢性腎臓病患者における赤血球造血刺激因子製剤の鉄代謝、ヘプシジン 25 に対する影響」において、血液採取・長期保存、他の研究への二次利用に関して文書にて同意を取得済みの凍結保存検体を利用します。</p>
<p>2. 研究目的・方法</p> <p>慢性腎臓病患者における腎性貧血治療には、作用時間の短いエポエチン製剤、作用時間が長いダルベポエチンアルファやエポエチンベータペゴルなどの赤血球造血刺激因子製剤（ESA）が使用されます。一方、ESA 療法の問題点に ESA 低反応性が悪い症例があり、低反応を示す患者さんの予後が不良であることが報告されています。鉄は ESA の造血反応性に影響する重要な影響因子で、鉄の充足度や鉄利用率が低い患者さんでは ESA の反応性が低下します。本研究では、ESA 治療中の慢性腎臓病患者さんにおける造血・鉄代謝に影響する因子の挙動を解明し、腎性貧血で治療中の患者の予後を向上することを目的に実施します。</p> <p>本研究では、既に研究「慢性腎臓病患者における赤血球造血刺激因子製剤の鉄代謝、ヘプシジン 25 に対する影響」において血液採取後に長期凍結保存された検体を利用し、予後に関わる因子の挙動を解析します。</p> <p>研究期間</p> <p>昭和大学医学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会にて承認後、昭和大学病院病院長の実施許可を得てから、2023 年 12 月末まで</p>
<p>3. 研究に用いる試料・情報の種類</p> <p>文書で二次利用への同意を取得して採取・凍結保存された血清を用いて研究を行います。</p>
<p>4. 外部への試料・情報の提供</p> <p>本研究では外部に試料・情報の提供は行いません。</p>

5. 研究組織

研究責任者	所属	職名	氏名
	昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門	教授	本田 浩一
分担研究者	所属	職名	氏名
	昭和大学 医学部内科学講座 腎臓内科学部門	客員教授	秋澤 忠男
	昭和大学 医学部内科学講座 腎臓内科学部門	助教	池田 美紗
	エバラクリニック	院長	道端 哲郎
	柴垣医院自由ヶ丘	院長	柴垣 圭吾
	柴垣医院戸越	院長	平尾 圭市
	医療法人翠悠会	理事長	本宮 善恢
	翠悠会診療所	院長	田中 賢治
	昭和大学薬学部薬学教育学講座 教育企画・評価学部門	教授	小林 靖奈
	UCLA 内科	教授	Tomas Ganz
	北里大学 血液内科	教授	鈴木 隆浩
	久留米大学 化学教室	教授	東元 祐一郎
	シノテスト R&D センター	生化学ユニット部長	飯塚 直美
	シノテスト R&D センター	センター長	芳村 一

6. お問い合わせ先

学部内科学講座腎臓内科学部門 氏名：本田浩一

住所：東京都品川区旗の台1-5-8 電話番号：03（3784）8533

研究責任者：昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門 本田浩一

研究代表者：昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門 本田浩一